令和５年度

第１回

進路説明会

【進路の手引き　第１集】

令和５年7月7日（金）　体育館

渋谷区立原宿外苑中学校

３年	組	番	氏名

目　　次

①-１	進路選択の基本的な考え方	１
①-２	ご家庭で取り組んでいただきたいこと	４
①-３	志望校選定のポイント	５
②-１	入試制度について（本年度のスケジュール）	８
②-２	今後の流れについて	１４
②-３	調査書について	１６
②-４	調査書に使用する成績について	１７
②-５	推薦等に関する本校としての基準	１７
③	都立入学者選抜における英語スピーキングテスト結果の活用について	１９
④	就職について	１９
⑤	昨年度の進路状況について	１９
⑥	奨学金などについて	２０
	国立高校について	２１
	その他の学校について	２２

①－１　進路選択の基本的な考え方

「自分自身を見つめ、将来どのように生きていきたいかを考え、見通しを立てながらその希望に向かって努力する。」これが進路を考えるうえで大切な姿勢です。

「進路」イコール受験や進学だけではありません。また進学についても「みんなが行くから」、「周囲の人が言うからなんとなく行く」というものでもありません。自分自身の将来を見据えて、よく考えた上で進路を決めてください。進路が決定するまで本人はもちろん、保護者の方も心配なことが出てくると思います。しかし、以下に述べるいくつかの点に留意し、本人がやるべきことを一つ一つ実行していけば、希望する進路に近づけるのです。

（1）進路選択のためのポイント

①自らの特性を知り、自分自身を活かし、伸ばす進路を見つける。

・自分自身の能力や性格、適性や興味・関心を見つめなおす。
・自分の特性をさらに伸ばせる進路先を検討する。

②目先の進路にとらわれることなく、将来希望する職業も考慮に入れ、長期的視点を持つ。

・自分は何に向いているか、どういう方面で活躍したいのか将来の目標を持つ。
・高校合格や進学は人生の唯一の目的ではなく、将来のための手段の一つであると捉える。
・高校進学を選択したときは、「進学先で何を学びたいのか」「高校を卒業したらどうするか」まで考えて高校を選択する。

③進学先や就職先を熟考することにより志望理由やそこへ進む目的をはっきりさせる。

・自分が志望する進学先や就職先について、熟考して志望理由をはっきりさせる。
・高校の特色、学科、教育目標、教育内容、卒業生の進路、入学の難易度などを具体的に調べ、実際に自分の目で確認してくる。
・学力だけの理由で志望校を選ぶと、第一志望が果たせないときには入学意欲がわかず、充実した学校生活が送れなくなる可能性がある。

*＊せっかく入学したのに、「進路変更」や「学校生活不適応」等などの理由で**中途退学**する人も少なくありません。その主な理由は、「（学ぶ）意欲が乏しい」や「思っていたイメージと違った」です。これらは、進路選択にあたっての熟考不足が原因と考えられます。このような失敗を避けるためにも、志望の目的をはっきりさせておく必要があります。*

④自分自身の進路計画をよく考える。

・自分自身の目標を実現するためにどのようなコースを進んでいくのか将来の進路計画を考える。

⑤進路の相談を積極的にする。

・自分から進んで、家族・先生・先輩・友人に相談する。
・特に、保護者の方との話し合いを密に行い、担任の先生とも相談をする。

⑥進路決定は、検討をした上、自分で決断する。

・最終的な進路決定は、保護者や先生などに他人まかせにするのではなく、自分自身で行う。

（2）生活や学習について

①毎日の生活や学習に取り組む姿勢が大切

希望する進路を実現させるために一番大切なことは、コツコツと「力」を蓄積させていくことです。この「力」とは学力だけではありません。精神力、体力も必要になります。以下のポイントに気を配りながら、毎日の生活や学習に取り組む姿勢を見直しましょう。

ａ）日々の授業を大切に

毎日の授業を真剣に受けることはもちろん、宿題や課題の提出や予習、復習など今の自分の状況を振り返り、改善の必要がある場合はすぐにでも直しましょう。毎日の積み重ねで実力はついていきます。

ｂ）提出物を大切に扱う

期限を守る、提出物そのものを大切に扱うことが重要です。特に進路に関する提出物についての期限は必ず守るようにしましょう。

ｃ）規則正しい生活を送る

睡眠時間は健康の源です。無理に削るのは好ましくありません。リズムをしっかり持って生活しましょう。また、この先の一年間を乗り切っていくには健康であることが一番です。入試は基本的に午前中に試験が行われます。朝からベストな状態で試験に臨むために、夜型の不摂生な生活は避けましょう。体調を崩したときは、焦らずじっくり静養し、無理をしないことも大切です。また、精神面の健康も大切です。不安や焦りから精神的に落ち着かず、勉強に手がつかなくなるケースも多々あります。友達との交流、家族との話し合いが精神的な支えになることがあります。気持ちを落ち着かせるように心がけましょう。

ｄ）委員、係、当番なども責任を持って

自分の役割に責任をもって、しっかり果たしましょう。

ｅ）身だしなみと言葉づかいにも気を配りましょう

面接等では日常がそのまま現れます。自ら意識して身だしなみを整え、きちんとした受け答えができるようにしましょう。これは大人の社会に入って最も重要なことです。

ｆ）文字を丁寧に

「雑」「薄い」「小さい」「くせ文字」は、今からでも直すようにしましょう。書類の文字はその人の第一印象にもつながります。

②学習についてはこのように取り組もう

ａ）計画的に、効果的な学習を

入試問題の多くは、１・２年生で習ったところからも出ます。ですから、３年の勉強をすると同時に１・２年の復習もしなければなりません。また、受験校が決まったらその学校にあった勉強も必要になります。限られた時間の中で、やらなければいけないことはたくさんあります。計画を立て、それにそった勉強に集中して取り組むことが、実力をつける早道です。計画通りにうまくいくとは限りませんが、そのときは計画を修正してかまいません。自分に合った余裕のある計画を立て、少しずつでも実行していきましょう。

ｂ）環境づくり、雰囲気づくり

落ち着いて生活し、学習できるような環境をつくり、雰囲気をつくることが学習には大切です。家では家族の協力、学校ではクラスメート全員の協力のもと、集中して学習に取り組むようにしましょう。

ｃ）すべては授業が基本

限られた時間で効率よく勉強する事が大切です。「授業中に理解し、覚える」ことを心がけてください。毎日５～６時間もの貴重な授業を受けているのですから、その時間をいかに有効に使えるかで、今後の成績の伸びが変わってきます。また、その日に授業で学んだことを、その日のうちに復習するようにしてください。勉強した直後に復習すれば短時

間ですむことでも、記憶が薄れた頃に勉強し直すにはその何倍もの労力がかかってしまいます。

ｄ）テストや問題集は、必ず復習を

勉強は何時間やったかではなく、力がついているかが大切です。つまり同じような問題を出されたときに、できるようになっているかということです。まちがえた問題は必ずやり直して、解き方を覚えることが大切です。そして、間違えた問題の類題を探し練習してください。定期テストや問題集は復習することによって力がつくのです。

ｅ）夏休みは勉強する最大のチャンス

「３年生になったら勉強するぞ」と強い決意でスタートしたものの、うまく勉強に取り組めなかった人、忙しすぎて十分勉強出来なかった人もいると思います。毎日の授業を進めながら、その中で１・２年生の復習をして実力をつけていくのは大変な事です。夏休みは、じっくり学習できる時間があります。自分が遅れている部分を徹底的に整理し、参考書や問題集にじっくりと取り組み、実力をつける最大のチャンスです。夏休みをいかに有意義に送るかが今後を決定すると言っても過言ではありません。

《夏休みの計画を立てるポイント》

・教科別の具体的な学習内容を決める。（例：問題集を１冊終わらせる）
・苦手な教科の勉強時間を増やす。（弱点克服に時間をかけるよう、時間配分を考える）
・塾や講習会へ通う場合、自分のレベルに合った講座や、自分の勉強時間も確保できるかどうかを考えて選ぶようにする。（塾や講習会だけに頼りすぎない）

（3）学校見学、説明会、授業体験に参加しよう

受験情報誌やその学校のＨＰを見たりパンフレットなどの資料を読んだり、話を聞いたりするだけではその学校の様子はわかりません。百聞は一見に如かず、是非自分の足を運んで、自分の目でよく見て感じてください。何校か訪問するうちに自分にあった学校がわかってきます。積極的に参加してください。１校を決めるために、４校は見るくらいの気持ちを持ちましょう。比較検討することが、自分に合った学校を見つける一番の方法となります。実際に受験する学校は必ず学校見学に行ってください。

①−２　ご家庭で取り組んでいただきたいこと

（１）受験生だからといって、生徒を甘やかさないでください

３年生だからといって特別扱いはしないでください。毎日の生活や学習する姿勢こそ大切なものであって「勉強さえやっていれば他はなにをやってもよい」というものではありません。**家庭でも学校と同じく自分の役割はしっかり果たすようにご指導下さい。**過度に気を使い、特別扱いをすることで逆に重荷に感じ、不安や苛立ちをみせることもあります。明るくなごやかな雰囲気を保つ中で、本人の自覚を育てることが必要です。

（２）しっかりとした健康管理を

健康管理は保護者の大切な役目です。特に十分な睡眠と食事は毎日の生活リズムをつくる上で重要になってきます。３年生になると夜遅くまで勉強し、朝寝坊して睡眠不足で体調を崩しがちです。勉強の効果は勉強時間に比例するのではなく、内容に比例していきます。長期的な計画を立てて、十分な睡眠時間を確保することをアドバイスしてください。

食生活では栄養のバランスでも配慮をお願いします。

また、感染症対策（インフルエンザ等の予防接種）もしておくことをお勧めします。

（３）家庭でよく話し合い、一緒に進路選択を考える

「困るのは自分だから」「自分の人生だから自分で考えなさい」という姿勢は、かえって受験生の気持ちを不安にさせたり、判断を誤らせたりするものです。逆に、親の考えを押しつけることも子どもの意欲を失わせます。成長したとはいえ、まだまだ経験の少ない中学生です。真剣に子どもと向き合い、話し合い、適切なアドバイスをしてください。進路に関しては、親子でしっかりコミュニケーションをとることが大切です。進路選択は、子どもだけで行うものでもなく、親が決めるものでもなく、親子が協力して決めていくものです。ですから、学校や塾に「おまかせ」というのではなく、一緒に進路について悩んで下さい。高等学校では、学校説明会・授業公開・体験入学・運動会・文化祭などが行われています。実際に足を運び、自分の目で確かめることが進路選択にとって重要です。親子でできるだけ情報収集をし、比較検討を始めてください。早い時期に志望が定まれば、その準備に時間をかけられます。また、例年、都立が第一志望でも私立を併願受験するパターンが多くありますので、**たとえ都立志向でも必ず私立高校も複数校チェックしておいてください。**

①−３ 志望校選定のポイント

（１）普通科・専門学科・総合学科

普通科は、中学校と同じように現代国語・古典探究・数学・英語・地理歴史・公民・物理・化学などの一般教科を中心としたカリキュラムが組まれているため、将来何になりたいか進路がまだはっきり決まっていない人や、大学進学を考えている人には適しているといえます。高校によって異なりますが、普通科の高校では大学受験のためのカリキュラムが組まれており、文系・理系に分かれて授業を行ったり、進学別コース制を取り入れたり、進学相談を行ったりして進学指導に力を入れています。

高校からすぐ社会へ出ることを希望するのであれば、専門知識を学び、資格取得の機会が与えられる専門学科を選んでもいいでしょう。専門学科には大きく分けて商業科・工業科・農業科・家政科・水産科などがあります。学科によっては、在学中に資格が得られるため、関連業界への就職が非常に有利になります。ただし、最近では専門学科が相当細かく分かれているので、高校卒業後に自分がどういう職種につきたいのかがはっきりしていなければ、志望の学科は決められない場合があります。自分の適性をよく考え、じっくり検討する必要があります。総合学科は、普通科目および専門科目の両方にわたってもうけられた多種多様な科目の中から、自分の興味・関心により選択できるところに大きな特色があります。

（２）過程をどう選ぶか？

① 全日制課程　朝から午後までの日中に授業があります。
② 定時制課程　日中または夜間の定められた時間帯に授業があります。
③ 通信制課程　自宅で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら、指定された日に登校し、面接による指導や実技の指導を受けます。
④ ネット高校　インターネットと通信制高校の制度を活用した高校です。

（３）学年制・単位制か？

① 学年制　学習する教科・科目が学年ごとに定められていて、学習成果が認められると単位が認定されます。一定の単位を超えると次の学年に進級します。全日制は３年、定時制は４年（一部で３年も可）を修了すると卒業が認められます。
② 単位制　３年間（または４年間）の中で必修（必履修）科目の他に自分が適した教科を選択する制度です。その学習成果が、認められ、卒業までに決められた単位数を習得することになります。

（４）５年間もあります

高等専門学校では５年間かけて工業に関する専門的な知識の修得とともに実践や体験を重視したもの作り教育を行います。卒業すると短大卒業と同じ資格が得られ、大学工学部３年の編入試験も可能になります。

（５）公立高校か私立高校か？

公立高校は、都道府県や市、町などの地方公共団体が設立した高校ですから、教育方針や教育内容は大きく違いはありません。一方、私立高校は設立者の建学の精神があり、これに基づいた教育方針を持っていて、個性あふれる学校教育を行っています。教育方針がさまざまですから、校風や規律も学校によって異なり、比較的生徒主体の公立高校に比べると、校則の厳しい傾向があります。また、私立には「大学付属高校」もあり、これらの高校では系列の大学への進学が優遇されている所もあります。しかし、優先入学にも条件があって（成績など）、その条件と希望する学部に進めないこともあるので、注意が必要です。

（６）男女共学か別学か？

公立高校は一部を除き、基本的には共学です。私立高校では男女別学の学校（男子校・女子校）もありますし、共学校でも男女別々の校舎やクラスで授業を行う高校もあります。ただし、最近では生徒数の減少から、かなりの学校が共学に方針を変えています。自分白身の性格を考えて判断した方がいいでしょう。

（７）自分の学力に合っているか？

高校の勉強は一段と難しくなるので、自分から進んで学習しなければなりません。仮に、自分の学力より高いレベルの高校に入学できたとしても、授業についていくのが大変で学習意欲をなくしてしまうことにもなりかねません。逆に、自分の学力よりも低いレベルの高校へ入学しても、物足りないと感じてやはり学習意欲を失うこともあります。大事なことは、**自分の学力を正しく知ることです**。模擬試験などは有効な手段と考えることができます。それぞれ自分に合った学力で志望校選びをする必要があります。

（８）通学環境・地域環境は適しているか？

３年間その学校で毎日を過ごすのですから、高校の所在地が遠すぎたり、地域環境が自分に合わなかったりしたのでは、充実した高校生活を送ることはできません。いくら自分にピッタリした高校を見つけたとしても、片道２時間かかるようでは３年間通うのは大変です。

何度か行ってみて、通学環境、地域環境を理解しておくことが大切です。

（９）校風が合っているか？

特に私立高校の場合には、その教育方針を理解したうえで選択しましょう。保護者の方の理解と協力も必要になります。例えば、特定の宗教の理念に基づいて設立した高校や校則が厳しい学校もあります。その高校独自の伝統や校風があります。資料を取り寄せたり、先輩がいれば話を聞いたり、高校訪問をしたりして、詳しく調べてみましょう。

（１０）入学試験や入学手続きを調べる

入学試験の日時や科目、面接の有無、発表の日時と方法、手続きの日時と方法、入学金・授業料の延納は可能かどうかなどおさえておく必要があります。

（１１）学費を調べ、卒業するまでの経済的見通しを立てる

学費は授業料だけではありません。入学時に必要な入学金、制服代、積立金、学用品、月々の納入（月謝、ＰＴＡ会費、生徒会費、同窓会費、教材費、積立金、その他）を考慮しておく必要があります。私立などでは同じ高校でも部活によって大きく金額が違うところもあります。

（１２）高校卒業後の進路を考える

高校卒業後の進学で、希望する大学をしっかり選ぶ場合は、高校の進学実績をおさえておくことも大切です。多くの高校が、進学実績を公開しています。また、指定校推薦枠もあります。私立大学付属高校は、ほとんどの場合が併設の大学への進学を目的としています。高校卒業の段階で大学を選びたい人には不向きです。ただし、最近は併設大学以外の大学への受験をすすめる付属高校もでてきています。なお、国立大学附属高校にはごく一部を除いて大学進学上の特典はありません。

高校卒業後、すぐに社会へ出て働こうという場合は、工業、商業などの専門高校を選ぶのが適当だと思われます。普通科の高校でもいいのですが、就職先とのつながりが強いのは専門高校だからです。

（１３） 情報を集めるには？

①原宿外苑中学校で手に入る情報

学年全体に知ってほしい情報は学年だより等でお知らせします。また、廊下の机には受験用の高校案内の本やパンフレットなどを置いていますので、活用してください。

体験授業の案内や文化祭の案内などは、随時教室や廊下の壁にも掲示していますので、定期的にチェックするようにしましょう。

②書籍やインターネットの活用

書店では受験用の高校案内の本や、高校別の過去問などの本が売られています。最近では各学校の開設するホームページで最新の情報を紹介していますので、興味のある学校のホームページは定期的にチェックするとよいでしょう。都立学校については、東京都教育委員会のホームページも参考にするといいでしょう。

③卒業生やその保護者からの情報

高校に在学している卒業生や、その保護者に話を聞きます。情報がわかるだけでなく、勉強の励みにもなります。ただし、何年も前の情報は必ずしも現在と一致しないので気を付けてください。特に保護者の持つ過去の情報は変わっていることが多いです。

④高校に直接出かける

最も有効な情報の収集方法がこれです。高校が催す説明会や文化祭には、積極的に参加してください。特に私立高校は電話をかけて質問すると、ていねいに応対してくれます。また、都立高校でも独自のパンフレットや学校説明会・体験授業を催す等、ＰＲに努めています。保護者同伴でも友達同士でも構いません。志望校には早めに足を運びましょう。

中学校を通じて申し込む場合もありますので、その場合は担任の先生に申し出てください。

②-１　入試制度ついて

都立高等学校

令和６年度東京都立高等学校入学者選抜の詳細については 10 月以降発表になります。東京都から「東京都立高等学校募集案内」が生徒全員分送られてきます。

６月に令和６年度都立学校入学者選抜日程が公表され、それ以降に「入学を希望する皆さんへ」が配布されます。いずれにしても、詳細は年々変更されるところがあるので、10 月までははっきりしない所があります。

（１）推薦に基づく入試（推薦入試）

推薦に基づく入試は主に都立高等学校全日制、高等専門学校で今年度卒業見込みの生徒に対して行われます。推薦には以下の２種類があります。

①　一般推薦　②文化・スポーツ特別推薦　（一部の学校で実施）

・選考基準　調査書点、集団討論及び個人面接、小論文または作文、実技検査、その他各学校が設定する検査の各点数を総合した成績で行います。(集団討論は令和 3,4 年度は実施しませんでした)

・試験内容は学校によって異なります。

・調査書点は評定または観点別学習状況を点数化して利用しますが、ほとんどの高校が評定を利用しています。

→詳しくは「東京都立高等学校募集案内」（後日配布）を参照

・提出書類は推薦書、調査書、願書、自己ＰＲカードです。自己ＰＲカードについては点数化されませんが、面接を行う場合の面接資料など、入試合否判定資料の一部として使われます。

・推薦に基づく入試の受験の出願資格は、本校の基準を満たしている生徒を対象とします。本誌 17 ページに基準が載せてあります。

・出願する都立高校が第一志望であり、合格後の辞退は認められません。

（２）学力検査に基づく入試（一般入試）

・選考　　学力検査の得点＋調査書点の総合得点で判定されます。

・全日制　　第一次募集・分割前期募集　ほとんどが５教科実施
　　分割後期募集・第二次募集　３教科実施

・定時制　　第一次募集・分割前期募集　３～５教科実施（各校で設定）
　　分割後期募集・第二次募集　３教科実施

学校によって作文や実技検査を実施しますが、定時制の試験では必ず面接を実施します。

・学力検査の得点と調査書点との比率（学力検査の得点：調査書点）

全日制　第一次募集・分割前期募集　７：３（極少数例外有）
　　分割後期募集・第二次募集　６：４
定時制　第一次募集・分割前期募集　７：３又は６；４
　　分割後期募集・第二次募集　６：４又は５：５

・学力検査の扱い（７：３の場合）

５教科５００点満点を７００点満点に換算します。

$$５００点満点\times\frac{（７００点\div５００点）}{1.4}$$

・調査書点の扱い（７：３の場合）

調査書点については入試科目の５教科はそのままで、実技教科は２倍となります。

５教科＋実技４教科×２＝調査書素点（６５点満点）

調査書点は、７：３の場合３００点満点となりますので、

調査書の満点（３００点）×（調査書素点÷６５）＝調査書点

・スピーキングテストの扱い（第一次募集・分割前期募集において活用）

１１月２６日（日）に都内会場にて実施されます。

A から F までの６段階で提出された評価を、下記の表のとおり２０点満点の点数として扱い、調査書に記載されます。

ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞﾃｽﾄ結果（ESAT-J）	A	B	C	D	E	F
都立高等学校で取り扱う点数	２０点	１６点	１２点	８点	４点	０点

つまり都立の学力検査（７：３）の計算は下記の通りとなります。

当日の学力検査（７００点満点）＋調査書（３００点満点）＋ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞﾃｽﾄ（２０点満点）＝１０２０点満点

・分割募集とは募集人数をあらかじめ分割し、第一次募集、第二次募集それぞれの時期に募集を行うことです。

・チャレンジスクールでは学力検査を行わず、志願申告書、個人面接及び作文で選考を行います。（世田谷泉高校、六本木高校、稔ヶ丘高校　等）

・エンカレッジスクールでは学力検査を行わず、調査書、個人面接、小論文または作文及び実技検査の各点を総合した成績で選考を行います。（練馬工科高校、蒲田高校　等）

・募集は一次募集、二次募集、分割募集（前期・後期）があります。

私立高等学校

例年、多くの私立高校では以下の入試制度で実施されていますが、名称や細かい制度が毎年のように変更されています。必ずしも昨年の条件が通用するわけではないので、説明会に参加することが必須となります。

① 推薦入試（第一志望校であり合格したら必ず入学する条件で受験する制度）

② 併願優遇（一般入試において優遇する制度）で名称は様々です。

③ 一般入試

（１）私立高校の推薦入試について　昨年度は、以下のように行われていました。

・推薦入試による募集人数は募集人数全体の 50%以内とする

・第一志望であり、合格後の辞退は認められない。また、出願の基準は各高校で定める。（内申基準、欠席・遅刻日数、特別活動の実績、特技　等）

＊　学力基準には 9 教科、5 教科、3 教科の評定で各高校が色々な組み合わせをします。
また、英検・漢検等（一般的には 3 級以上）の資格を取得しているときなど推薦基準を下回っていても出願が可能になるときがあります。（各高校で定める）

・中学校長の推薦書、調査書、作文、面接、実技（適性検査）等で選抜されます。
（適性検査として学科試験を実施する学校も一部ありました）

高校が定めた推薦基準の例

A校
○ 本校が第一希望で､中学校長の推薦があること。
○ 3 年生の欠席が 10 日以内であること。
○ 5 科 23 かつ 9 科 41 以上

B校
○ 令和４年 3 月中学校卒業見込みの者で、人物が真面目で心身共に健康であり、
中学校長の推薦を得られる者。
○ 本校の教育方針を理解するとともに校則を遵守し、3 年間親もとから通学できる者。
○ 中学校 3 年生の「欠席・遅刻・早退」がいずれも 10 回以内で、1・2 年生の各学年
に各々20 回以上ないこと。
○ 国・数・英の 3 教科の評定合計が「12 以上」
または　国・社・数・理・英の 5 教科の評定合計が「19 以上」
全 9 教科に「1」や「2」の評定を含まないこと。

※学校見学・説明会・体験授業への参加などを判断基準として重視する学校もあります。
また、親子での見学・説明会参加を判断基準として示している高校もあります。

・自己推薦制度について
中学校からの推薦書にかわり、自己推薦などを提出し受験する制度ですが、実施校は少ないのが現状です。担任、受験生本人の自己申告、保護者の申告で受け付けるなど、そのケースも様々です。自分自身を推薦するために必要な客観的な判断材料（資格認定証、賞状などその高校が定める水準以上の具体的なもの）が必要となります。

・スポーツ・文化・一芸推薦について
受験校が第一志望で、高校側が設定する基準以上の活動実績（全国大会出場や都大会上位入賞、都大会出場など）があると認められる場合に受けられる。各大会、コンクールなどでの実績、検定資格などで優れているなど、学力基準以外の要素が大きくなります。
部活動顧問の推薦を必要とする場合があります。

・特待生制度について
学業等で特に優れた力があると認められると、入学後の学費の免除か一部免除を考慮する制度です。推薦入試や併願優遇などで、「特待生推薦基準」を設けている高校もあります。当然のことながら、この基準は推薦入試の基準よりも一段と高いものとなります。
一般入試でも、入試で高得点を取った場合など、特待生として選ばれたことを合格発表の際に通知する高校もあります。

（２）私立高校の併願優遇・一般入試について

併願優遇について

・私立第二志望校で、第一志望が万一不合格だった場合、必ずその高校に入学することを条件に入試に際し配慮がある制度です。この制度を利用すると、都立高校の第二次募集・分割後期募集に出願できない場合があります。
・併願優遇制度には「都立高校のみの併願」と「都立または私立高校との併願」や「他の私立高校との併願」が可能な場合があります。入試説明会での説明や入試要項をよく確認してください。
・内申や欠席日数による基準を設けており、推薦入試より内申の基準が高く設定されています。
・学力に関する筆記試験で指定された点数を取ることを合格の条件とする高校もあります。
（例：国語・数学・英語 で合計 140 点以上）
・推薦入試と同様に事前に私立高校側と中学校側とで行う「入試相談」（12 月 15 日以降実施）を通すことが必要です。
・多くの高校では「延納願い」を提出するなどの手続きを取ることにより、都立高校の発表日まで入学手続き（入学金納付）を待ってくれます。ただし、一部延納を認めていない学校（一時金を納付するなど）もありますので、各高校の入試要項で必ず確認してください。

併願優遇基準の例（昨年度の例）

C 校
○ 公立高校が第一希望で本校が第二志望であること。
○ 全 9 教科の評定合計が「26 以上」であること。
（この高校における推薦入試の基準は 9 教科の評定合計が「24 以上」です。）
○ 1 年生から 3 年生までの欠席日数の合計が 20 日以内であること。
○ 入試相談で出願を認められること。

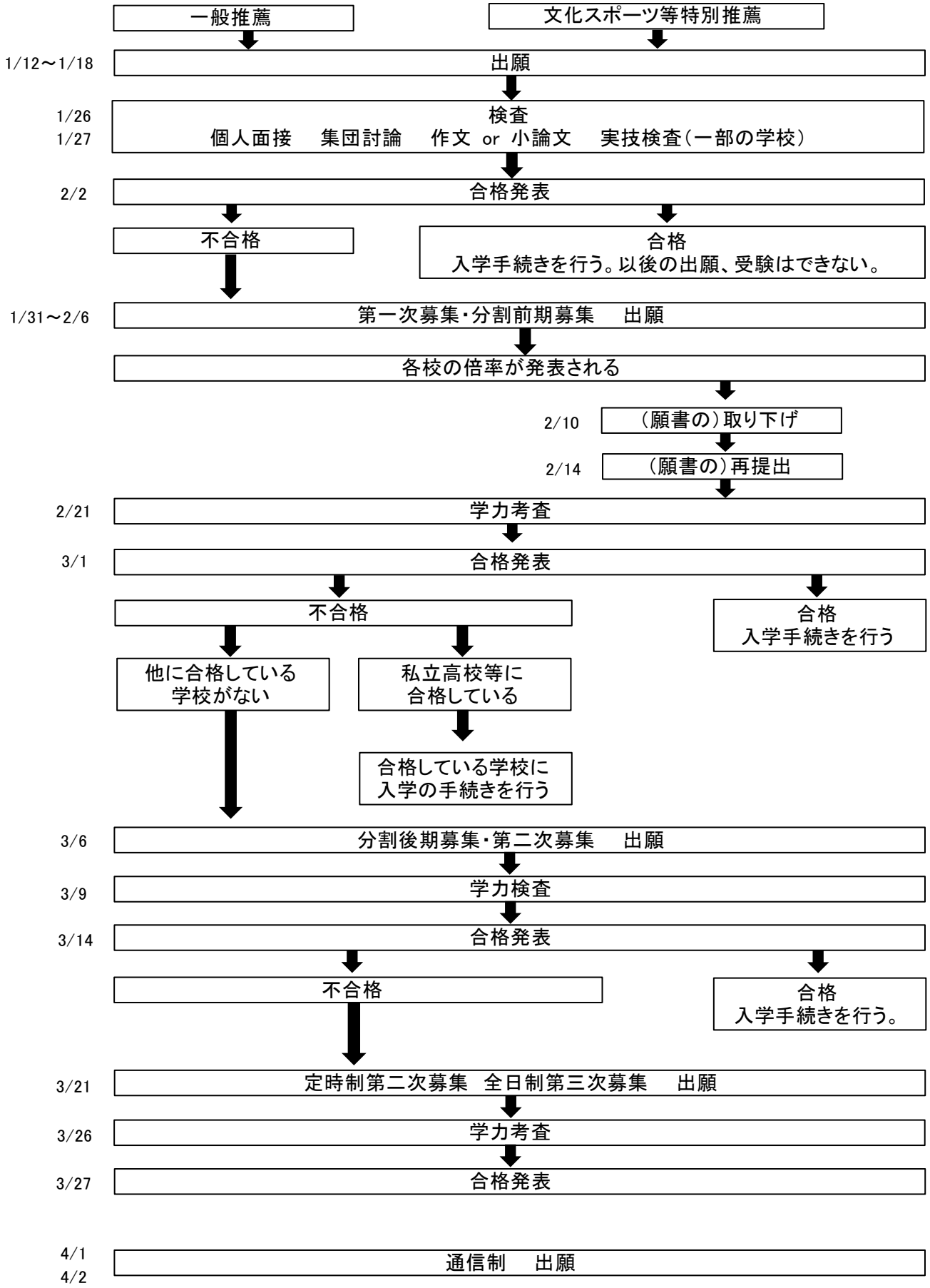
一般入試について

・毎年、都内のほとんどの私立高校では 2 月 10～12 日の 3 日間に入学試験を実施します。
・複数の私立高校を受験する場合は入試日が重ならないように注意する必要があります。
・入試相談を受けず調査書、実際の試験で合否が決まります。（希に入試相談が必要な高校もあります）
・学力検査は大半が、国・数・英の 3 教科で行われ、ほとんどの学校で面接または小論文があります。

【注意事項】
・入試相談には書類や一部高校側との事前予約が必要です。必ず日程に余裕をもって希望を提出してください。
・出願する学校には、必ず**学校見学や説明会に参加してください。**

本年度のスケジュール（予定）

都立高校入試の流れ



私立入試の流れ

推薦 or 併願優遇の利用を希望する

希望しない

～10/30　進路希望調査で推薦 or 併願の希望を出す

受験校を選ぶ

10/27～11/2　教育相談で希望を確認する

一般入試の準備をする
・願書を取り寄せる
・調査書など担任が書かなければならない書類を提出する。特に都外の私立または国立の高校を受験する人は、早めに提出する。
・必要に応じて個別相談に行く

推薦委員会で推薦 or 併願の可否を審査する

12/1～8　教育相談で推薦 or 併願の可否を伝える

12/15　入試相談を行わない

入試相談を行う

高校から出た基準に達していたら出願の準備をする

高校から OK が出たら出願の準備をする

1/15　（都内）推薦入試出願

1/22　（都内）推薦入試

1/23　発表・手続き

1/25　併願優遇　一般入試　出願

2/10～　併願優遇　一般入試　試験

2/11～　発表・手続き

併願優遇 or 一般入試を受験する、かつ都立高校を第一志望とする場合、入学金等の納入を延期する手続きを行う。（延納願い）

※注　延納手続きのタイミングを確認する事
（出願時 or 合格発表の時）

②−２ 今後の流れについて

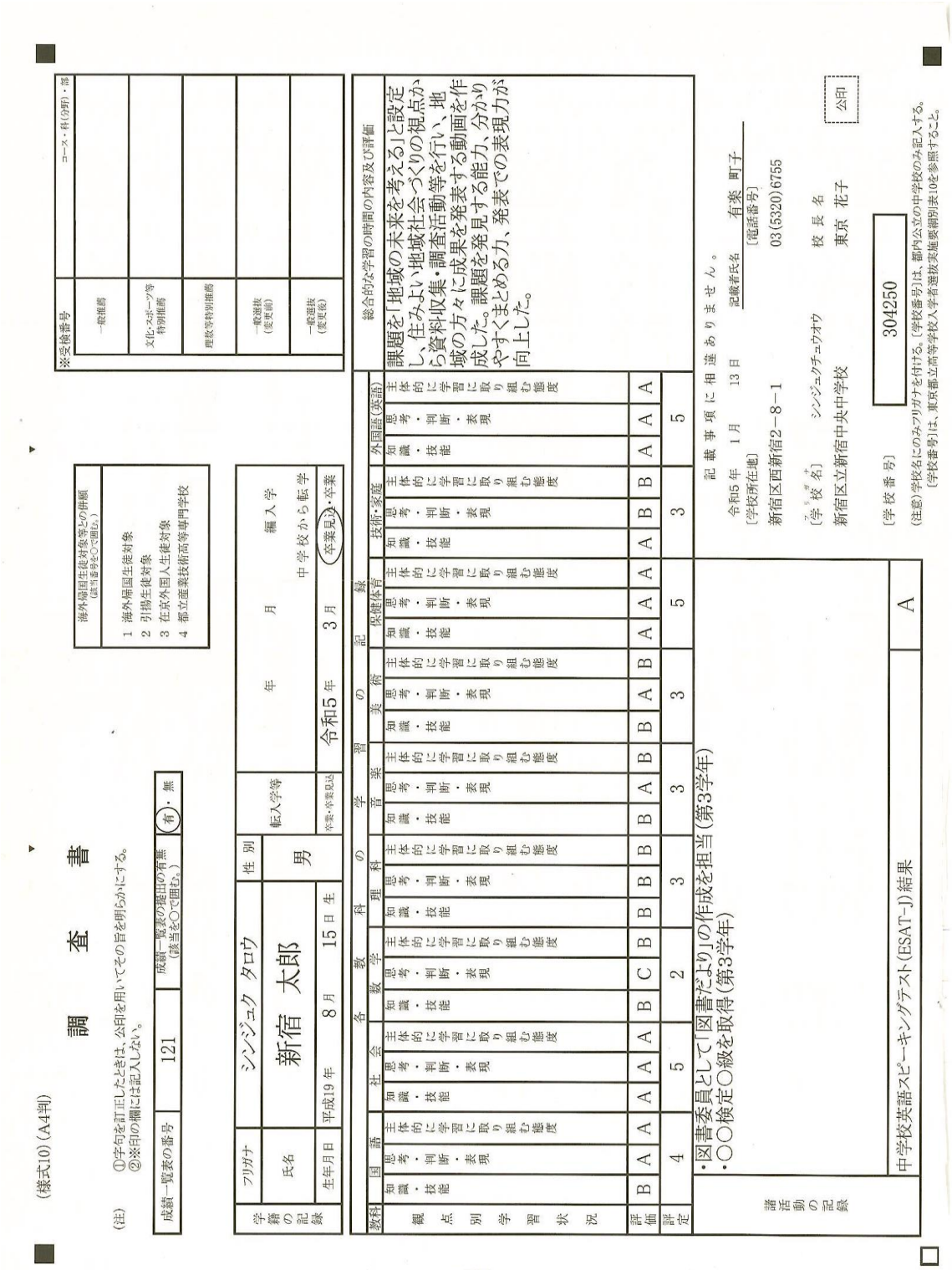
※入試関係の日程は変更になることもあります

5月		進路学習	○普段の生活を見直して、規則正しい生活を送り、提出物等の期限を守りましょう。 ○高校卒業後の進路をふまえて希望の進路を保護者と話し合いましょう。また、積極的に高校見学、体験入学・説明会等に参加しましょう。 ○基礎学力の定着のために1・2年の復習をしましょう。
6月	前期中間（14～15） ＊3年生は6教科実施	領域診断テスト(30)	
7月	夏季休業（21～）	第１回進路希望調査 第１回進路説明会（7） 教育相談前に進路希望を確認します **第１回教育相談（21～27）**	
8月	夏季休業（1～29）	第２回進路希望調査	
9月	前期期末（6～8） ＊3年生は8教科実施		
10月	前期終業式（4） 後期始業式（10） なみき祭（21）	第２回領域診断テスト 第２回進路説明会（中旬に実施） **第２回教育相談（10/27～11/2）** 第３回進路希望調査 推薦・併願優遇希望者は第３回進路希望調査で申し出てください。 （11月の面談で確認します。） 面接練習（個人or集団面接） 10月～12月	○文化祭、説明会、個別相談に参加しましょう。なるべく複数の学校を見ておきましょう。そして出願先を絞り込んでいきましょう。 ○受験形態の希望を保護者と話し合いましょう。 ○面接練習のためにも普段からの身なり、言葉遣いにより一層の気を配りましょう。
11月	後期中間（14～16） ＊3年生は9教科受験	推薦・併願優遇希望を記入 **第２回教育相談（10/27～11/2）** 「推薦願」「併願優遇願」の提出 進路に関する会議 推薦・併願優遇希望者について全校で審議します。 受験（検）写真撮影（中間後） 第４回進路希望調査	○三年間を振り返り、「諸活動の記録」をまとめます。 ○受験日程を考慮して出願先を決定しましょう。私立の場合入試日が複数あっても、受験形態によっては日にちが指定されることもあるので、募集要綱をしっかりと確認しましょう。

12月	全校集会（25） 冬季休業（26～）	**第３回教育相談（4～8）** 入試相談　（15～） 調査書作成依頼提出 推薦・併願優遇制度希望者は「推薦願」「併願優遇願」が提出されなおかつ「進路会議」にて了承、さらに「入試相談」にて受験（検）が許可されてから提出します。	○15日前までに全ての学校見学や説明会への参加を終わらせましょう。 ○進路面談を受けて、受験最終確認を提出して下さい。都立高校の必要書類は学校で配布しますが、高専やチャレンジスクール等は個人での取り寄せになります。詳しくは募集案内をご覧ください。 都立高校以外の必要書類は各自で準備してください。 注：入試相談は私立高校の推薦入試や併願優遇を利用する時に行われますが、私立によっては実施しない学校もあります。
1月	授業開始（9） なみき祭展示（19・20）	就職者統一選考（10頃） 他県私立入試（17～） 都内私立推薦入試（22） 都立高校推薦入試（26・27） 都立高専推薦入試(26)	○出願、入試、発表、手続きの日程は一人ひとり異なります。募集要項で確認してください。
2月	後期期末試験（26・27） ＊3年は5教科実施	都立高校推薦合格発表（2） 都立高専推薦合格発表（2） 都内私立一般入試（10～） 国立一般入試 都立高専入試（15） 都立高専合格発表（20） 都立第一次及び 分割前期入試（21）	○私立高校の一般（併願優遇も含む）入試合格者で都立高校を受検する人は延納手続きを忘れずにしましょう。 注：延納ができない学校もあるので、募集要項で確認してください **＜全力を尽くす＞** **生活全般を落ち着いてけじめのあるものにする。**
3月	三送会 卒業式（19）	都立前期・一次合格発表（1） 都立分割後期及び 全日第二次入試（9） 都立分割後期及び 全日第二次合格発表（14） 都立定時制二次入試（26） 都立定時制二次合格発表（27）	○受験は団体戦です。自分の受験が終わっても、仲間の進路が決まるまで応援し続けましょう。卒業に向けての準備をしましょう。（入学前に課題を出す高校もあります。）
4月		都立通信制入試（上旬）	

②－3 調査書について

次の調査書は昨年度の都立のものです。私立は募集要項などに添付されていて学校により書式は異なります。



（様式10）（A4判）

調査書

（注）①字句を訂正したときは、公印を用いてその旨を明らかにする。
②※印の欄には記入しない。

成績一覧表の番号	121	成績一覧表の提出の有無（該当を○で囲む。）	有・無

学籍の記録					
	フリガナ	シンジュク タロウ	性別		
	氏名	新宿 太郎	男	転入学等	年 月 編入学 中学校から転学
	生年月日	平成19年 8月 15日生		卒業・卒業見込	令和5年 3月 卒業見込・卒業

海外帰国生徒対象等との併願（該当番号を○で囲む。）
1 海外帰国生徒対象
2 引揚生徒対象
3 在京外国人生徒対象
4 都立産業技術高等専門学校

※受検番号

一般推薦	コース・科（△男）・席
文化・スポーツ等特別推薦	
理数等特別推薦	
一般選抜（変更前）	
一般選抜（変更後）	

各教科の学習の記録

教科	国語			社会			数学			理科			音楽			美術			保健体育			技術・家庭			外国語（英語）		
観点別学習状況	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	B	A	A	A	A	A	B	C	B	B	B	B	B	A	B	B	A	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A
評定	4			5			2			3			3			3			5			3			5		

諸活動の記録
・図書委員として「図書だより」の作成を担当（第3学年）
・○○検定○級を取得（第3学年）

中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）結果 A

総合的な学習の時間の内容及び評価
課題を「地域の未来を考える」と設定し、住みよい地域社会づくりの視点から資料収集・調査活動等を行い、地域の方々に成果を発表する動画を作成した。課題を発見する能力、分かりやすくまとめる力、発表での表現力が向上した。

記載事項に相違ありません。
令和5年 1月 13日 記載者氏名 有楽 町子
〔学校所在地〕 〔電話番号〕
新宿区西新宿2－8－1 03(5320)6755
〔学校名〕 シンジュクチュウオウ 校長名
新宿区立新宿中央中学校 東京 花子 公印
〔学校番号〕 304250
（注意）学校名にのみフリガナを付ける。〔学校番号〕は、都内公立の中学校のみ記入する。〔学校番号〕は、東京都立高等学校入学者選抜実施要綱別表10を参照すること。

＊諸活動の記録欄は「学校内外の活動のうちから、当該志願者において特筆すべき活動を取り上げ、その活動の事実や実績を、所見を除いた客観的な記録として記入する」となっています。記入は学校ですが、何を書いてほしいのかは自己申告になります。また、原則証明書類が必要になります。また、英語スピーキングテスト ESAT-J の結果が記載されます。

②−４ 調査書に使用する成績について

調査書には 3 年時の評価・評定のうち 12 月 31 日までの学習状況が記載されます。

前期中間	6 教科	6 月 14 日（水）～15 日（木）
前期期末	8 教科	9 月 6 日（水）～8 日（金）
後期中間	9 教科	11 月 14 日（火）～16 日（木）
後期期末	５教科	2 月 26 日（月）～27 日(火)

高等学校等に提出するのは、基本的に４月～１２月までの成績を総合したものです。

評価及び評定の対象となるもの

- 定期考査
- 実技テスト
- 課題および作品
- 小テスト
- 授業への取り組み
- 提出物（レポート、宿題）
- その他

成績は定期考査の結果だけではありません。シラバスも参照してください。

②−５ 推薦等に関する本校としての基準

１．本校在学中に、何事にも努力し、学習面及び生活面においてきちんとした学校生活を過ごしており、他の生徒の模範となっていること

２．志望する上級学校への志望理由が明確であり、入学後の学校生活に意欲的に取り組めると認められること

３．志望する上級学校が定めた推薦基準に該当すること

≪推薦などを希望するにあたっての注意点≫

1　本校在学中も進学後も、合否結果にかかわらず、推薦を受けたものとしてふさわしい行動をとるとともに、進学の際には校長からの推薦者であることを自覚し、何事に対しても積極的に取り組むこと。

2　第一志望の学校に出願及び受験をし、合否の結果が出るまで、他の推薦入試の出願をしないこと。推薦入試に出願したら必ず受検（受験）する。

3　合格したら、その学校に必ず入学すること。推薦による入学が許可された段階で、他の学校への出願及び受験はしないこと。

推薦を受けた者としてふさわしくない行動をした場合、推薦を取り消すこともあります。

≪推薦入試までの手順≫

1　夏季休業前

授業や普段の生活で改善が必要な点がある場合、担当の先生からアドバイスがあります。夏の教育相談期間中に担任から生徒と保護者に改善が必要な点を伝えます。

希望する学校の説明会に必ず行って、推薦基準を確認してください。

2　前期末

未だ改善点がある場合には、担任から改めてアドバイスを伝えます。

3　10 月　教育相談前

学年で状況を集約し、全ての先生方に周知します。進路希望調査に記入した学校については、見学に行ってください。また、推薦等の希望があれば進路希望調査に記入してください。

4　10 月下旬～１１月上旬　教育相談期間中

推薦等の希望の有無を確認します。希望している生徒に改善が必要な点があれば、本人や保護者に具体的に説明します。

5　12 月の教育相談終了まで

推薦等を希望する学校について、推薦委員会（学校長、副校長、各主任で構成）において審査を行います。その後速やかに、推薦の可否を伝えます。

私立高校は本校教員が 15 日から高校へ入試相談に行きます。都立高校の推薦希望者も本校内審査及び準備がありますので、推薦を希望する生徒は必ずこの期間中に申し出てください。

これらの手順は、以下の入試において適応します。

都立高校　・一般推薦　・文化スポーツ等特別推薦

私立高校　・入試相談を行う推薦入試

　　・出願基準が設けられている推薦入試

③ 都立入学者選抜における英語スピーキングテスト結果について

※別紙にて説明

④ 就職について

中学校から就職しようとする場合は、次のことに心がけて選択・決定をするようにしましょう。なお、高校や大学から就職する場合も内容は同じことですから、進学希望者も今の内に心得ておきましょう。

１．希望する事業所について調べよう。
（１）学校に送られてくる事業所案内やハローワーク（公共職業安定所）の求人情報を読む。
（２）ハローワークを訪ねて、係員から説明を聞く。
（３）進路指導担当の先生から説明を聞き、資料を得る。
（４）事業所を訪問して見学する。
（５）希望する事業所で働いている卒業生などを訪ねて説明を聞く。

２．どんなことを調べたらよいか。
（１）正式な事業所名と所在地、電話番号、通勤経路と所要時間。
（２）職場の環境や雰囲気。
（３）事業所の所属する産業名、生産、営業品目。
（４）経営の規模や組織、従業員数（男女別）、平均年齢。
（５）中学卒業者を募集している職種名、仕事の内容、選考方法。
（６）就業時間、休日、休暇、勤務形態、残業の有無。
（７）賃金、諸手当、昇給。
（８）通勤・住込みの別、宿舎の様子。
（９）社会保険や健康保険など。
（10）福利厚生施設・設備。
（11）定時制高校などへの通学条件。
（12）事業内職業訓練や研修制度の有無。
（13）労働組合の有無。

３．事業所への応募（就職）のしくみ
（１）求人情報･･･１１月頃から、ハローワークを通して中学校に連絡される。
（２）就職試験･･･１月中旬以降に各事業所から一斉に実施される。
面接と身体検査だけのところが多い。
（３）就職を希望するものは、ハローワークで行う職業適性検査を受けておくとよい。

（１０月）

⑤ 昨年度の進路状況について

令和4年度	90(名)	
国　立	1	東京工業高専
都(県)立	36	大江戸　科学技術　工芸　駒場　桜町　忍岡　新宿　新宿山吹 杉並　世田谷泉　第一商業　田柄　千歳丘　農芸　光丘　日比谷　広尾 深沢　向丘　武蔵丘　目黒　六本木　産業技術高専
私　立	52	開成　科学技術学園　関東国際　慶應義塾　京華　麹町学園女子 佼成学園女子　國學院　駒場学園　駒込　淑徳SC　淑徳巣鴨 女子美術大学付属　実践学園　品川学藝 成城学園　中央大学杉並　東海大学附属高輪台　東京成徳大学 東京都市大学等々力　東京農業大学第一　桐朋 日本工業大学駒場　日本体育大学荏原　日本大学櫻丘 日本大学名誠　二松学舎大学附属　文京大学女子 法政大学国際　宝仙学園　明星学園　目黒学院　早稲田佐賀 N高　S高
そ の 他	1	

令和3年度	104(名)	
国　立	5	東京学芸大附属　東京工業高専　鳥羽商船専門学校 館山海上技術学校　自衛隊高等工科学校
都(県)立	32	青山　赤羽北桜　足立新田　井草　北園　国際　駒場　小山台　鷺宮 桜町　世田谷総合　千歳丘　千早　田園調布　豊島　豊多摩　日本橋 深沢　文京　三田　芦花　桐ヶ丘　六本木　産業技術高専 長野県立上田
私　立	65	江戸川女子　学習院　川村　関東国際　慶應義塾志木　慶應義塾女子 京華商業　國學院　国際基督教大学　国士館　駒場学園 サレジアン国際学園駒込　実践学園　品川翔英　品川エトワール 下北沢成徳　淑徳　潤徳女子　湘南工科大学附属　城北　成城学園 大東学園　中央大学附属　貞静学園　東京都市大学等々力 新渡戸文化　日本工業大学駒場　広尾学園小石川　富士見ヶ丘 文化学園大学杉並　文教大学付属　法政大学国際　朋優学院　保善 明星学園　目黒学院 四谷インターナショナルスクール高等部　和光　科学技術学園 代々木高等学校　第一学院　東京共育学園
そ の 他	2	

⑥ 奨学金などについて

主な奨学金制度について

・東京都育英資金

・交通遺児育英会

・あしなが育英会

・渋谷区奨学資金制度

・東京都母子福祉資金

・入学支度金貸付

・私立高校等授業料軽減助成事業

下記以外の制度につきましては、案内が届き次第お知らせいたします。

東京都育英資金

＜貸与額＞

国公立高校・高専進学　　月額 18，000 円
私立校高校・高専進学　　月額 35，000 円
専修学校に進学　　月額 35，000 円

※令和４年度時点のものであり、令和５年度に変更になる場合があります。

中学校卒業前に申請（予約募集）　→　夏休み直後に必要書類を中学校に提出

高校入学後に申請　（一般募集）　→　必要書類を進学先に提出

交通遺児育英会

＜貸与額＞

高等学校・高等専門学校　月額 2 万円，3 万円,4 万円から選択
専修学校高等課程　　月額 2 万円，3 万円,4 万円から選択

・その他、入学一時金や、進学準備金の貸与などの制度もあります。

国立高校について　　※昨年度の資料

東京都にある国立高校は下記の７校です。
（選抜方法は昨年度または現在発表されているものです）

◆ 筑波大学附属駒場高等学校　世田谷区池尻４－７－１　03(3411)8521
・令和５年度選抜方法　　推薦（なし）
一般（国・数・英・社・理・調査書）

◆ 東京学芸大学教育学部付属高等学校　世田谷区下馬４－１－５ 03(3421)5151
・令和５年度選抜方法　推薦（なし）
一般（一次：国・数・英（リスニング含む）・社・理・調査書）

◆筑波大学附属高等学校　文京区大塚１－９－１　03(3941)7176
・令和５年度選抜方法　　推薦（なし）
一般（国・数・英（リスニング含む）・社・理・調査書）

◆お茶の水女子大学附属高等学校　文京区大塚２－１－１　03(5978)5855
・令和５年度選抜方法　推薦（なし）
一般（国・数・英・社・理・調査書）

◆東京工業大学付属科学技術高校　港区芝浦３－３－６　03(3454)8529
・令和５年度選抜方法　推薦（小テスト;数学・理科第１分野、面接）
一般（国・数・英）

◆東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校　台東区上野公園１２－８　050(5525)2406
・令和５度選抜方法　専攻によって違いがある。ＨＰで詳細を確認のこと。

◆東京工業高等専門学校　八王子市椚田町１２２０－２　042(668)5127
・令和５年度選抜方法　推薦（面接・面接シート・調査書）
一般（国・数・英・理・調査書）

学力検査日は１月中旬から２月下旬にかけて行われます。普通科の４校は入試日が同じなので、１校しか受験できません。また、学校によっては通学区域を制限したり、通学時間の限度を決めたりしている場合もあるので注意が必要です。授業内容等に大学との連携が見られる学校もありますが、大学附属であっても大学進学に関して優遇措置がないのがほとんどです。いずれの学校も詳細は各学校のホームページに掲載されていますので、確認して下さい。
推薦等は、11 月・12 月に出願、受験の場合があります。

その他の学校について

（1）専修学校

①　専修学校とは何か

専修学校は、以前から存在していた「各種学校」を母体に生まれた学校です。専修学校は修業年限が 1 年以上で、授業時数が 800 時間以上、定員 40 人以上の学校のことをいい、この条件を満たさない学校を各種学校といいます。いずれも昼夜あり、比較的短時間にすぐ職業に役立つ技術・技能を教え、高校のような一般教養科目は少ないです。

中学校卒業を入学資格とする専修学校を高等専修学校といいます。

②　高等学校と高等専修学校の違い

高等学校では普通科、専門学科という学科区分がありますが、高等専修学校では工業分野、医療分野、衛生分野などの分野で区分され、分野の中にさらに多種類コース（学科）が設けられています。修業年限などについても、高校は全日制では 3 年と定められていますが、高等専修学校では、その教育内容によって修業年限や授業時数はさまざまです。 従って、自分の希望する学校について、よく調べることが必要です。後期中等教育段階において、高校とは異なり主として実学に重点を置く専門教育を行うところが高等専修学校の大きな特色と言えます。

③　高等専修学校の教育課程

専修学校の分野は、工業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、家政・服飾、文化・教養の 7 つの分野に分類されます。

また、高等専修学校には、1 年生の課程、2 年生の課程、3 年生の課程というように、修業年限の異なる課程が設けられています。そのような年限の違いは、それぞれのコース（学科）の教育目的・内容の違いよります。

④　高等専修学校からの進路

高等専修学校は、中学校卒業者を確かな技術と教養を持った社会人に育成するため、教科指導だけでなく、生活指導、職業指導にも力を入れた教育を行っています。

どの分野でも各業界との連携が密接になっているため、卒業生の就職にあたっては万全の態勢を整えています。高等専修学校卒業後の進路を見ると、多くが就職しており（自営を含む）、その他短大、専門学校などにも進学しています。

○大学入学資格について

修業年限が 3 年以上で一定の基準・条件を備えた高等専修学校の修了者には、大学入学資格が付与されます。

○高校卒業資格について

「大学入学資格」と「高校卒業資格」は別のものです。前者は大学を受験しなければ意味のない資格ですが、後者は高校卒業という学歴の満了を証明するものであり、どちらも高等専門学校卒業という学歴の上に加味されるものです。 3 年制以上の高等専修学校の多くで、通信教育課程や夜間課程を持つ高等学校と連携し、同時に 2 つの学校に籍を置くことで「高校卒業資格」が取得できる学校があります。（高等学校との技能連携）この技能連携は、高等専修学校での履修科目を連携校の履修科目の一部とみなし、高等学校（技能連携）でのスクーリングなどの面接授業によって卒業単位とする方法です。

（２）通信制サポート校

通信制高校は、入学資格もゆるやかで、自学自習を基本とした学びの場です。しかし、それだけに学習を続けていくには「強い意志」と「自主性」が必要になってきます。

そこで注目をあびているのが通信制サポート校です。サポート校は学校法人ではない民間の教育機関で、通信制高校のレポート提出やテスト対策を全面的にバックアップし、高校卒業までサポートしてくれるところです。ただし、提携している通信制高校と、サポート校との両方に学費を納めることになります。

（３）都立職業能力開発センター

以前『職業訓練校』と呼ばれていた学校で、短期間で専門的な職業技術を習得し、より有利な就職をするために、厚生労働省の認可により設置された公立の機関です。訓練終了後には公共職業安定所（ハローワーク）が就職の斡旋もしてくれるため、就職状況も良いです。但し、中学卒業者に限らず一般に広く門戸を開放しているので、高校を卒業した人や大学を卒業した人も多く入学します。

中学校卒業者を対象にしているのは 1 年生コースと 2 年生コースです。高校入試や就職試験との併願はできません。

授業内容は実習中心で、学科の学習は少ないです。また、昼間部と夜間部があります。
授業料は無料です。（教材費の貸与あり。）

おもな訓練科目
金属、機械、工業彫刻、塗装、溶接、土木、土工、家電サービス、 プラスチック加工、　電気工事、自動車整備、福祉、コンピューター・・・など ＊募集科目については内容が変更になる事があります。

○職業開発センター校、入校選考について

入校選考には「推薦選考」と「一般選考」があります。選考内容は 以下の３つを総合的に判断して、合否を決定します。

1）推薦書・調査書　　2）面接（個人）　3）学力検査